
2月10日 第6回一宮の子どもと教育を語る集い 講演『オカルト・オウム・子ども』を聴いてきました

反オカルト運動の重鎮、立命館大学教授の安斎育郎さんの講演を聴いてきました。期待通りの名講演で、会場につめかけた500人を超える聴衆は彼の話にすっかり魅了され、ロビーで販売されていた著書も飛びように売られていました。

■ 講演は、なんと〈スプーン曲げ〉から始まった

壇上上がった安斎さんは、いきなり「今日の話がどんなものになりそうか、予感してもらうために、〈スプーン曲げ〉をやってみたいと思います。」とポケットからスプーンを取り出しました。「左手の指先に〈気〉を込めてね、首根っここの所を『柔らかくなれ、柔らかくなれ』と一心不乱に念ずるんです。そうするとだんだん金属組織的な変化がおきてね、熱をおびて柔らかくなるんです。そしたら右手の人差し指でヒョイとやると、ほら簡単に曲がりますね。」(会場全体がどよめく)「〈スプーン曲げ〉なんて僕でもできるくらい簡単なことなんですね。どうやってやるかはこれから話しますから、今日から練習を始めれば今年の忘年会までには間に合いますよ。」(大爆笑)こうして、安斎さんは聴衆の心をいっぺんにつかんでしまいました。うーん、すごい。

講演では、『オウム真理教事件の意味するもの』、『心配な近年オカルト事情』、『超能力・心霊現象の社会史』の順に、江戸っ子らしい歯切れの良い口調で、最近の世相を次々と斬っていかれました。豊富で幅広い知識(大川興業の芸人さんの話まで出てきました)と庶民的な語り口(しかも科学者らしい冷静な分析力!)に、僕はすっかり魅せられてしまいました。

■ なぜ若者はオウムに入信するのか

これについて、安斎さんは6つの原因をあげて説明されました。①不合理の常態化：核兵器の存在、戦争、飢饉・貧困、就職差別など、合理的精神への信頼を傷つけられることが多すぎる。②消えぬ先行き不透明感：地震も予知できない自然科学、長引く不況を解決できない社会科学等、科学への信頼が揺らしている。③科学のブラックボックス化：科学が進歩してきたら、みんな非科学的になってきた。電子レンジ、CDプレーヤーの原理をほとんど誰も説明できない。「なぜ」と問う心が失われていく。④知識断片丸暗記得点期待型受験生症候群：今の受験体制は、暗記主義という学習方式の中に科学の学習を矮小化してしまっている。本質をわしづかみにするような理解がなおざりにされて、知識の断片が詰め込まれている。⑤悪乗りするオカルト産業：TV、雑誌がくだらないオカルト情報をタレ流している。視聴率至上主義の弊害。⑥迷信や占いのたぐいに振り回される大人社会：大人社会こそが迷信に振り回されている。仏滅、丙午迷信、血液型占いなど。

まったくその通りですね。『血液型と性格の間に関係があると信じている人は、差別意識が強い傾向がある』という調査結果もあるのだそうです。なるほどねー。

■ わからないことは引き続き調べればよい

このあとも、こつくりさん、宜保愛子、Mr.マリック、サイババのインチキを次々と暴いてみせる安斎さんの講演には、まことに胸のすく思いがしました。

最後に安斎さんはこう締めくくりました。「不思議な現象を見たら、『超能力だ』なんて簡単に結論づけなくて『わからないことは、引き続き調べればよい』という態度でいけばいいんです。今日の話のまとめは、たったこれだけ(笑)。でも、これこそ本当に科学的な態度ってものなのです。現在までの科学でも〈わからないこと〉は、山ほどある(だからこそ、研究者が何万人もいる)わけですから、いわゆる〈不思議現象〉も同様に、科学的・実証的に調べればいいんです。」

頭ごなしに否定したってオカルトは退治できないんでしょね。科学的・実証的に調べてあげて真

実を明らかにするってのが反オカルト運動の正しいやり方なのでしょう。ファラデーだって、実験によって〈こっくりさん〉が人間の無意識的な筋肉の動きによるものだってことを明らかにしたんだものね。

■ 安斎さんと酒を酌み交わしてしまった

講演の後、この集會を主催した一宮市教職員労働組合のメンバーが安斎さんと寿司屋で会食を催す、という話を聞きこみ、僕も特別に参加させてもらいました。(ハジシラズな村田です)

20人ほど(当然 僕は初対面)の宴会にずうずうしく割り込ませてもらったのですが、挨拶代わりに得意の超能力ネタ(?)の〈ベルバラ〉を披露したらえらくウケてしまって、いっぺんにうちとけることができました。インチキ超能力も役に立つことがあるんですね。安斎さんも僕の〈芸〉を喜んでくれて、「うん、そうやって生徒さんの目の前で実演しながら超能力のインチキを解きあがしていくのが大切なんですよ。」と誉めてもらえまして、どういうスプーンが曲げやすいか、なんて話で盛り上がってしまいました。うれしくて僕のその〈ベルバラ〉の道具を彼に進呈してきました。どこかで使ってくれるといいなあ。(年間150回前後の講演をされているんだそうです)

安斎さんは、杯をかたむけながら、「僕は、科学は万能である、とは言ってないんです。宗教とか哲学といった〈価値〉を追求する部分も科学と同様に大切であって、それが欠けていたか あるいは間違っていたのがオウム真理教であり原爆であり731部隊ですよ。何が〈価値あること〉かを追求し続けることが大事ですね。」と語っておられました。

一宮市教組のみなさんには本当に感謝しています。日教組や全教などの上部組織を持たない小さな組合らしいのですが、いきいきと活動している様子で、僕も少しだけ元気をわけてもらいました。初対面であんなにおいしいお酒が飲めたのは初めてでした。

村田憲治(加納高校)

「もつと科学的な見方持とう」

2/16(金) 朝日新聞

子らの超能力「信仰」を批判

夕陽が西の空に染みこんでいる。...



オウム真理教事件をきっかけに指摘されている。若者や子供たちの超能力、オカルトブームの問題を考へる集會がこのほど、県一宮勤労福祉会館で開かれた。「たたり」や心靈写真を信じる子供が多いというアンケートの結果報告や、超能力を批判的に検証している立命館大学の安斎賢郎教授の講演があった。

集會は、一宮市教職員労働組合、楽田伸治委員長らの主催。例年の集會は、教育実践報告などが多いが、オウム事件の社会的背景に関心が高まる中、今年は「今、科学的なものを見方を子どもたちに」をテーマにした。

アンケートは十四項目からなり、同教組が昨年末、市内の小中学校生約三千五百人を対象に行



った。「幽霊やおぼけの存在に肯定的」「絶対的でない」「絶対的でない」「いるのではないかと肯定的回答が、小学低学

「超能力者」は学年が高いほど信じる割合が低下するが、「たたり」の「ろい」は逆に年上ほど高まる傾向があり、どちらでも中学生の五〜六割がその存在に肯定的。また「おまじない」を「しり」で行動を決める「子供が三〜四割近くいた。同教組は「超

年で約四割、中学生で約六割を占め、「心靈写真」は小学生とも約四割が肯定的だった。

「超能力者」は学年が高いほど信じる割合が低下するが、「たたり」の「ろい」は逆に年上ほど高まる傾向があり、どちらでも中学生の五〜六割がその存在に肯定的。また「おまじない」を「しり」で行動を決める「子供が三〜四割近くいた。同教組は「超

能力などへの興味が高く、しかも高学年ほど信じるのは、テレビなどの影響が大きいのではないかとしている。

「オカルト・オウム・子ども」と題して講演した安斎教授は、若者がオウム真理教に入信する背景として、「不合理的」が常識化し将来に不安を抱かせる社会の裏面や、オカルトを垂れ流しにするテレビや大人の責任などをあげ、一身の周りの情報が複雑にな



り「子供が「なぜ」と思ってもたれも答えを返せなくなっている。獨り「ハウ」使の方」だけ知ってはいられない。本質にこだわらない子を育てたいという「と指摘。

スプーン曲げの実演や「こっくりさん」「霊視」など様々な「心靈現象」、迷信の覆明かしを交えながら、「決まり切った超能力しかできない人ほどだまされやすい。今の科学で説明できないことは山ほどあり、それは引き續き開ければいいこと。説明できないからといって、不思議現象を特別なものと考えれば必要は何もない」と話し、科学的な姿勢の大切さを説いてきた。